



東京部会(第 91 回)

日時: 2017年5月19日(金) 19:20-21:10

場所: 日本大学経済学部本館2階A会議室

参加者: [順不同・敬称略] 篠原総一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、鍋島史一(教育実践研究オフィスF)、岡部ちはる(東京証券取引所)、鈴木深(東京証券取引所)、高橋勝也(都立武蔵中・高)、升野伸子(筑波大学附属中学)、後藤洋政(慶応義塾大学)、鈴木孝治(日本経済教育センター)、大澤裕次(東京都金融広報委員会)、小林秀人(東京都金融広報委員会)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上12名。他に読売新聞より3名(挨拶後退席)。

(1) 夏の経済教室の準備状況の確認を行った。

鈴木深さんと岡部ちはるさんから、タイトル、内容などが確定して、チラシ案内の印刷、配送準備がほぼ完了、6月1日には、東証HPで案内と受付を開始するとの報告があった。

チラシでは、中学に関して教科書を公民だけでなく、地理、歴史の教科書も持参してほしいとの記載要望があり、ウェブ上でその旨を呼び掛けることになった。そのほか、登壇する先生方の資料締め切りや後援関係など、準備状況を確認した。

(2) 夏の教室の「テスト問題と経済教育」の内容が検討された。

鍋島史一さんから、「テスト問題を視点に授業改善を考える」に関して内容趣旨の説明があった。これは昨年までは入試問題の解説の時間としていたものを、入試問題の解説に加えてそれをどのように平常の授業やテストに反映させてゆか提案をしてゆこうというプログラムjである。

鍋島さんからは、テストに求められる要件をまず確認して、その要件を満たす問題をどのように作成するか、また、生徒の変容を確認するための採点や評価の流れを当日紹介したいとの説明がされた。また、当日取り上げるテスト問題の候補とその特徴、センター試験に代わる新テストのサンプル問題と候補問題との関連なども合わせ紹介された。

篠原代表からは、今回の夏の教室で、新テストと経済教育の関係にも触れてほしいとの要望があり、それにもこたえられる内容をめざしたいとの回答があった。

(4) 主権者教育に関する報告があった。

新井から、東京部会有志でおこなってきた「主権者教育に経済教育からの風を」会議の報告がされた。

篠原代表からは、どういう政策に対してどういう決め方が社会にとってよいのかを考えることは大事であり、このテーマでの検討はさらに必要とのコメントがあった。

(3) 教材検討行われた。

高橋勝也先生が作成に協力した厚生労働省の教材集『「はたらく」へのトビラ』のなかの、「最低賃金制度を深く考えてみる」という授業プランである。

この授業プランは、最低賃金を巡る労働者A(批判論)と労働者B(引き上げ論)のシナリオを生徒が読み、それをもとに考えるというロールプレイと話し合いを加味したものである。高橋先生が中学三年生で実施した例では、個人で判断させたときは、最低賃金制度は、もっと充実させるべきと言う主張のB氏の意見が圧倒的に多く、グループにしてやっと批判的なA氏に賛同する意見がでたとの実践の様子も報告された。

検討では、意欲的で面白いが、ロールプレイから生徒が何をつかみ、どう変容したのかの評価がこのプランだけからは見えない、最低賃金が何を目的として設定されたのかそれを押さえたうえでのロールプレイが必要ではないか、最低賃金に対する対立は、まず経営者と労働者の間であり、その影響が労働者間の格差などにでてくるので、そのプロセスを踏まえてロールプレイを設定する必要があるのではないか、などの意見が交わされた。高橋



先生からは効率と公正、規制か自由かという概念の理解を目指しているとの回答があった。

テーマとして重要な問題を取りあげているので、これをもとに出された意見を踏まえて授業展開のマニュアルを作成してほしいとのまとめで、検討を終了した。

(4) 篠原代表から、大阪部会の河原和之先生の「自動車生産から経済的地理見方・考え方を育てる」、山本雅康先生(奈良学園中高)の「18歳選挙権や新科目公共を見据えた租税に関するアクティブラーニングの授業」の資料が配布されたが、残念ながら検討する時間がなかった。

また、東京部会としての活動のさらなる活性化のために、中学校の先生方が参加しやすい土曜日に部会を設定してみること、秋以降「公共」をテーマにシンポジウムなども企画したいとの意向が示された。今後の課題として検討することになった。(文責:新井)

次回開催予定:17年6月22日(木)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部。議題は、夏の教室準備確認、教材・実践(主権者教育実践、テスト問題など)に関するディスカッション、情報交換など。

7月は14日(金)の予定。場所は未定。